講義内容を変更せざるを得なかったりした経緯のある方も多いと思います。

弊社では、そういった経緯から、当アカデミー内の矩形講習や、他の教育機関における教育研修（経済産業省バイオ人材育成システム開発事業[H15年度]）において、JBICが受託した『バイオインフォマティクス人材育成事業』で企画研究員向け教育研修等を行う際には、教育環境におけるだけでは罰を受けないようにするために、KNOPPIXを利用したバイオインフォマティクス教育用教材を開発し、利用しています。

KNOPPIXとは、「CDのみでブート可能なLinuxディストリビューション」で、日本語版は独立行政法人産業技術総合研究所が作成し無料公開しています（http://unit.aist.go.jp/it/knoppix/）。マン内装のHDへのインストールなしにLinux環境を実現できるので、演習内容に応じてカスタマイズ（演習に必要なソフトウェアのインストール、ユーザ設定、プロキシ設定等）することにより、WindowsがインストールされたクライアントPC上で、Linuxベースの演習を実現することができます。CD上にデータを保存することはできませんが、付属のUSBメモリやネットワーク接続されたファイルサーバ等にてデータを保存することが可能です。教育環境としては、研究受講者が変わることに伴うマシンのClean Upした必要はありませんし、受講者としては、配布されたCDを利用すれば自宅/会社のマシンでも同じ環境で予習・復習できるというメリットがあります。

弊社では、KNOB（KNOPIX for Bio）という、KNOPPIXをベースにBLAST、EMBOSS、BioPerl等のバイオインフォマティクスにおける代表的なソフトウェアをインストールした、バイオインフォマティクスの利用・学習用に特化したKNOPPIX CDを開発するプロジェクトに参加しております。無料でダウンロードできますので是非一度お試しください。また、KNOBを用いたユビキタスなバイオインフォマティクス教育システムの構築も図っております。興味のある方は、お気軽にご相談下さい。

KNOBプロジェクト：http://knob.sourceforge.jp/
KNOBの利用方法：http://www.mahorex.com/knob.php/

---

The 14th International Conference on Genome Informatics (GIW 2003)の報告

宮野 悟（東京大学）

1996年よりYebisu Garden Hallで開催してきたGIWは、今年は場所をPacifico Yokohamaの国際会議場に移え、2003年12月15日（月）～17日（水）の3日間開催されました。プログラム委員長は金久實（京都大学）、Michael Gribskov（UCSD, ISCB President）の両博士で、44件の投稿論文から25件の論文が採択されております。基調講演は、赤池弘次博士（元統計数理解析研究所長）、Charles DeLisi博士（Boston University）、Michael Zuker博士（Rensselaer Polytechnic Institute）が行いました。本学会の主催である、ポスター及びソフトウェアによる発表では、ポスター発表90件、ソフトウェア発表16件があり、過去最大の数になりました。参加者数は約610名に達しました。

GIW 2003の開催前日12月14日には、「The First Annual Symposium on Association of Asian Societies for Bioinformatics (AASBi) 2003」が同じ場所で開催されております。またAkaike Information Criterion (AIC)の30周年を記念したAIC 2003（2003年12月14日～17日）とポスター発表が共同開催され、また赤池博士の基調講演は、AIC 2003と共同開催となりました。今回は、韓国（論文発表3件、ポスター発表23件）、シンガポール（論文4件）、台湾（1件）、などのアジア地域からの参加が目立ちました。

赤池弘次博士
Prof. Charles DeLisi
Prof. Michael Zuker

The Best Paper Award

受賞論文：”Reducing False Positives in Molecular Pattern Recognition”, Xijin Ge, Shuichi Tsutsui, Hiroyuki Aburatani, Shuichi Iwata
～False Positive In Award Selection?～

Xijin Ge
Genome Science Division, Research Center for Advanced Science and Technology,
The University of Tokyo, 4-6-1 Komaba, Meguro-ku, Tokyo 153-8904

In the morning of Dec. 16, 2003, when I was rushing towards the main conference hall of Pacifico Yokohama for the morning session of GIW2003, I was stopped by the conference staff near the receptionist's desk and was told to be sure to attend the banquet that night. False positive! This is the first impression when the secretary explained that our paper, "Reducing false positives in molecular..."